



月歩学歩



「げっぼがっぼ」と読んで欲しいが、その意味は、“月日を歩き、学んで歩く”ということ？



特集

「わくわく体験研修 そのII」

【私たちにとって蝉は夏にいるのは当たり前で、しっかり観察する機会はありませんでした。しかし、Sense of Wonder という当たり前のことを不思議に思う感覚を見つけるために蝉の羽化を実際に見てみると、幼虫は意外とノソノソ歩いていて可愛く感じました。そもそも生きている幼虫を見るのも初めてで、こんな風に歩くのかと驚きました。】(2年:成田 明音)

2-13P

その他の内容

キャンパス・ライフ

- ◆ スターバックス お話ライブ (高森 智子) 14-15P
- ◆ 和光保育園 わこう村大バザール (石井 章仁) 16P
- ◆ 木更津社会館保育園 木更津こどもまつり (由田 新) 16P
- ◆ New Face! 宮本 秀樹 先生 田島 美帆 先生 17-18P
- ◆ 「明德あそぼうカー」おめかし中 18P
- ◆ あそび基礎演習 合同授業 19P



特集 わくわく体験研修 そのII

Sense of Wonder の発見

担当：福中 儀明（理事長）



2年：成田 明音

長野に行く前、理事長室の隣の部屋で、蟬の羽化を観察することになりました。

金光、井上、上田、町田、若月、成田、長谷川、星と理事長を合わせた9人です。正直なところ、蟬の羽化を徹夜で見るなんてなんの意味があるのか全く分からなかったのが本音です。

当日、全員集まってからグループに分かれて、夜の学校内に蟬の幼虫を探しに行きました。十匹は見付かるだろうと少し余裕をもちながら探すはずが、脱け殻は大量にあるのに中身が入ってるものがなかなか見つからず、暗い中必死で懐中電灯を木に当てる姿が

ありました。その光景はなかなか異様なものでした。

理事長は一人で暗闇に溶け込み幼虫を探していました。ときどき懐中電灯の明かりで浮かび上がる理事長の顔はホラーだった気がします。

木を探しまわって気付いたことがありました。蟬の脱け殻にも種類があり、小さいものと大きいものがあったのです。小さいのはもう羽化の時期が終わっていたらしく、空のものしか見付かりませんでした。1～2時間ほど探し回りましたが結果は三匹...意外と大変でした。

捕まえた幼虫を理事長室の隣の部屋に運び、理事長が用意した枝に置きました。そこからは、みんなで話しなが

ら幼虫の様子を観察しました。背中から少しずつ出てくる様子は気持ち悪い反面、少し神秘的だったのを覚えています。徐々に体が殻から出てきて羽が伸びていきました。色は予想に反し茶色ではなく、薄い緑がかかった半透明の色で（編注：表紙写真参照）、羽が伸びていくにしたがってみんなの蟬への興味関心が高まっていたのが分かりました。完全に羽が伸びきり、あとは乾くだけになると大体撮影も終わり、時間も23時を過ぎていました。もっと時間がかかるものだと思っていたので、拍子抜けでした。少しずつ茶色に変化しはじめてから、みんなの疲れもピークに達し、キャンプに備えて寝袋で眠りにつきました。

朝起きると、羽化した蟬が室内を飛び回っており、捕まえた幼虫が成虫になれたことをみんなで喜びあいました。最後には蟬を窓から外に逃がし、解散となりました。

私たちにとって蟬は夏にいるのは当たり前で、しっかり観察する機会はありませんでした。しかし、Sense of Wonder という当たりのことを不思議に思う感覚を見つけるために、当たり前だと思っていた蟬の羽

化を実際に見てみると、幼虫は意外とノソノソ歩いていて可愛く感じました。そもそも生きている幼虫を見るのも初めてで、こんな風に歩くのかと驚きました。幼虫、成虫ともに茶色いはずなのに、羽化したては緑がかかった半透明の色でなぜなのだろうと不思議に感じることができました。

長野に行く前に全員がその感覚を得たことで、グループがまとまったのではないかと思います。

羽化の観察を終え、いざ長野に行ってきました！長野では様々な体験をしましたが、今回はそのなかでも特に印象に残った3つのことを書きたいと思います。

まず1つ目は、登山と下山についてです。約十キロのリュックを背負い約十キロの山道を登りました。最初は雑談しながら余裕で登っていたのですが、約半分も行くと重さから体力を奪われ道に足をとられみんな無口になっていきました。全員一緒に登ると思っていたのですが、それぞれのペースに変化してしまい3つほどのグループに分かれました。一番早かった金光、上田、井上のチーム

は、最後のほうになると誰かがつまずいたり転んだりしても、誰も声をかけることすらできなかつたそうです。

そのようなことがありながらもなんとか全員、目的地に着くことが出来ました。ハッキリ言うるととても辛くて足が筋肉痛になりました。しかし、目的地に着いた時の達成感と充実感を味わえました。そのおかげか、その後何もやる気が起きなかつたです...

下山時は食料品が無くなったためリュックが軽く、1度登ったこともあり道を歩くコツをなんとなく掴んでおり、比較的疲れずにすみしました。登りの時のように無口になることはなく、歌を歌いながら下りました。下りている時、周りを見ると、コケモモや野生のブルーベリーがなっており、登りと同じ道を歩いているはずなのに、登りの時は辛くて目に入らなかつたことに気付きました。ちなみに、野生のブルーベリーは当たりと外れがあり、意外と美味しかったです。コケモモは小さかつたので、大量に口にに入れてモゴモゴするのが甘くて幸せでした。

下りている時は楽だったので、小休憩中、金光、井上、上田の

3人には悲劇が起きました。流れる冷たい水を飲んで涼んでいる時に、上からヒキガエルが降ってきたのです。ちなみにカエルを投げたのは長谷川。トンネルではしゃぎながらカエルをとっていたのを、成田と星は目撃していました。カエルが頭上から降ってきた時の3人の叫び声は、正直な話とても愉快でした。

2つ目は、この長野の醍醐味とも言える温泉掘りです。掘りに行くまでの道が意外と険しく、成田は足をとられ怪我をしました...

実際に掘る場所に着くと、「え、ここで掘るの?」と言ってしまうほど、ただの河原が広がるだけでした。目を凝らして見てみると、岩に白いものが付着しており湯気がたっている場所もありました。川の脇に源泉が湧き出ている、温度をはかってみると88℃もある熱湯でした。温泉掘りということでしたが、その流れ出ている源泉と川の水をせき止めて入れるようにするというもので、考えていたものとはちょっと違っていました。

いざ温泉作りを始めると、冷たかつたり、熱い水の中で石を積んで行

くのが大変で、三途の川で石を積んでいる気分になりました。

完成した温泉は温度が安定しなかったため、落ち着いては入れませんでした。とても気持ち良かったです。1つ問題があるとするならば、硫黄の匂いがとてもきついことくらいでした。

帰りは温泉で疲れが抜けたものの、気持ちよすぎて気が抜けた状態と硫黄の匂いで一刻も早くお風呂に入りたかったのを覚えています。

最後の3つ目は星空です！

これは、見ないと伝わらないと思いますが、本当に降ってくるようでした。私たちが生活している場所は、夜になっても電気がついておりとても明るく、星はあまり見えないのが現実です。しかし、長野の夜は回りが見えないくらい暗くて、懐中電灯が必須の状態でした。明かりは星の光りで、手探りで動きました。星の輝きに圧倒され、成田、上田、長谷川、金光はテントの中で寝るはずが外に寝袋を出して四人並んで寝ました。予想以上に寒く凍えそうでしたが、それ以上に星の輝きに惹かれました。流れ星もたくさん流れてとても幻想的でした。星は頭だ

けテントから出しぬくぬくしていました。町田と若月と井上は、星よりもテントの中でのお話やトランプで盛り上がっていたらしく、ほとんど寝ていなかったようでした。

最後に長野全体の感想として、電波が全く無いので一切携帯が使えなかったことが大きいです。普段携帯を常に使用している私たちとしては未知の世界でしたが、案外無くても生活出来ると分かりました。

しかし、3日間だけだからこそ出来たことで、ずっととなると、情報の中で生きている私たちには不可能なことなのではないかと思います。今の生活の時間があの時のようになったらと考えてみましたが、私たちの現在の情報技術への依存を考えると、携帯があるのが当たり前、どこでも電話、メールができるのが当たり前というようになっています。だからこそ、1年生のみんなにもこの体験をしてほしいと思います。

一番伝えたいのは、Sense of Wonderは福中儀明さんこと理事長を凄く好きになれる授業だということです。理事長、大好きです！

隠岐の國の人間と文化に出会う旅

担当：田中 葵



この研修は、島根県北の日本海に浮かぶ隠岐の島で1週間過ごすわくわく体験です。本年度は、その島の知的障がい者援護施設「仁万の里」(編注*にまのさと)で2週間の保育実習Ⅲを行った鈴木美菜さんに加わる形で、栗原唯さんと田中の3名の旅、「仁万の里」並びに「都万(*編注:つま)保育所」での研修、イカ釣り(今年は歴代最高の123杯!ものイカを釣りました)等、隠岐ならではの体験を味わいました。

私は今回が6回目の隠岐になりますが、隠岐の広く澄んだ海と空に毎回心が洗われます。そして、訪れるたびに隠岐の方達への感謝が深まります。毎回温かく迎えて下さる仁万の里の職員と仲間の方々(仁万の里では、“利用者”ではなく、“仲間”と言います)、保

育所の方々とのびのびとした子どもたち。イカを釣ると言えばそのさばき方を教えに来て下さる方、仕事終わりにひよいっと魚釣りに誘って下さる方、その魚たちを料理して御馳走して下さる方、快く自宅に招いて下さる仁万の里の元施設長、あわびやサザエなど豪華な魚介類を手に、仕事終わりに立ち寄ってBBQの準備をして下さる仁万の里の職員の方々、そして現地でのプランやコーディネートなど、私たちのお世話を何から何までして下さる現施設長...、初日から最終日まで、今回も、隠岐の方達のお世話になりっぱなしの1週間でした。このような体験の中で、さまざまな人、出来事、自然に、出会いました。その出会いを経た2人のレポートを紹介します。

2年：鈴木 美菜

私は学生生活最後の施設実習とわくわく研修の計3週間を、隠岐の島で過ごしました。私が隠岐の島を選んだのは、離島に行ってみたいという単純な理由からでした。そんな理由で、実習も隠岐の島で行うことになってしまい、行く直前にすごく不安になってしまいました。ですが、学生のうちにしか出来ない隠岐の島での実習ですし、隠岐の島で3週間もの長い時間を体験でき、今後の自分を大きく変えた実習とわくわく研修でした。

隠岐での実習と研修の前の自分は、何をするのも、一生懸命取り組みはするものの、「学び」と言われてしまうと、何をどう学んだのか、「学び」とは何なのかかわかっていませんでした。

実習は頑張るけれど、覚えるのは仕事内容で、私自身、実習前と後とでどう気持ちが変わったのかと聞かれても、「何も変わってない」と答えるだけで、「学び」というものが何かわからず、何となく、「学び」という言葉を使っていけばいいのかな？と思っていました。しかし、本当の「学び」についてはわからない自分がいました。

隠岐の島の皆さんは、本当に温かい人たちばかりでした。実習中も、休みの職員さんが隠岐を案内して下さったり、職員さんの集まりで御馳走して頂き、おうちに泊まらせて下さったりもしました。その温かい人たちの中で、実習と研修ができたことを幸せに思います。

そしてなぜ、今まで私が学べていないと思っていたか、今考えると、学ぶ気持ちがなかったのだと思います。私は、勉強をしに実習しているのではなく、仕事をしに実習をしていたと思いました。千葉県から遠く離れた隠岐で実習することで、辛くなった時、頼ることも出来ない、全く知らない環境の中で過ごすことで、今まで人に頼ってばかりだった自分を見つめ直すことが出来たり、早く皆の中に入りたいという気持ちで、人と関わりを持てたりしたことで、いろいろなことをたくさん考えるようになりました。

今までの自分には、そういう気持ちがあまりなかったと気がつきました。誰かがなんとかしてくれる、のではなく、自分でなんとかしなくてはならない環境だったからこそ、考えられたと感じました。

私の中で隠岐の島での出来事はとても大きく、これからどうするべきなのか考えられた実習と研修でした。仁万の里で、私は利用者さんへの見方が変わりました。そして、仁万の里の職員の方達と同じように、「障がいを持った方達と、同じ人間として一緒に過ごしていきたい」という思いを強めました。その思いが、結果的に来年からの私の就職につながりました。

隠岐の島は私の第二の故郷になりました。早く隠岐の島に帰りたくです。これからも、隠岐の島の人たちの優しさ、温かさを見習い、そのことを忘れず生活していきたいです。

2年：栗原 唯

私が隠岐の島に行こうと思った理由は、ログハウスでの共同生活や、イカ釣り・そば打ちなど、普段体験できないことができることと知り、純粹に楽しそうだと思ったからです。

実際に行ってみて、まず、自然の素晴らしさに“日本”を感じました。海は真っ青で透き通っていて、地平線に沈む夕日には思わず見とれました。

そして、何と言っても、隠岐の島の人たちの温かさです。千葉からやって

きた、何もわからない私たちに、隠岐の方達はとても親切にして下さって、初めて会ったということを感じさせませんでした。仁万の里で研修させて頂きましたが、仲間の方々も私たちのことを温かく受け入れて下さいました。保育所にも研修に行かせて頂きましたが、パワフルな子どもたちが迎えてくれて、子どもに戻ったような楽しい時間を過ごすことができました。

このわくわくで、様々な人たちに出会いました。「島から帰る時は“いってきます”、島にまた訪れるときは“ただいま”。名残惜しいくらいがちょうどいい。」と隠岐の人たちは言っていました。このように言って下さったことや、滞在中に豪華な手料理、郷土料理をふるまって下さったこと、魚釣りやニイナ（貝）採り、夜空が綺麗に見えるとおきの場所へのお誘いなどなど、本当によくして頂きました。

この貴重な出会いが今回限りの関係で終わってしまわないために、また、隠岐の島の良さを伝えるために、必ずまた隠岐の島に行きたいと思っています。

島旅行に行きたいと思っている方、来年わくわくに参加したいと思っている1年生！ぜひ隠岐の島で素敵な思い出を作ってきて下さい！

わくわく体験研修「隠岐の國の人間と文化に出会う旅」日程内容

日程	午 前	午 後	夜
9/13 金	羽田空港 06:50発 米子空港 08:05着 JR 9:09発 境港 9:25着 ●境港、妖怪ロード観光	本土にお別れ 高速船 境港 11:40発 西郷港 13:07着 =隠岐の島に到着 鈴木さんと合流	仁万の里へご挨拶 ●玉若酢神社観光 食料調達 ログハウスチェックイン オリエンテーション
9/14 土	●都万保・小・中学校 ●合同体育祭見学	●シーカヤックで島巡り ●ローソク島遊覧船	●地元食堂「あしべ」にて 刺身等御馳走を頂き談話会
9/15 日	●隠岐そば「尾見そば」工房 にて、そば打体験 → あご だしで頂く	●黒曜石拾い（久見） ●観光「壇鏡の滝」 ●ひおうぎ貝拾い（蛸木）	ログハウスにて自炊
9/16 月・ 祝	●かぶら杉、中村海岸観光 ●サザエ村にて昼食 (サザエカレー、サザエ丼)	●白島展望台 ●五箇巡り ●貝拾い（津戸）	●仁万の里職員の方と魚釣り ●「あしべ」にて調理して頂 く → 星空観測（大津久）
9/17 火	○選択コース別研修 仁万の里（加工班：栗原、各班：田中） 保育所（鈴木）		●仁万の里前施設長宅訪問 サザエ等御馳走を頂く
9/18 水	○選択コース別研修 仁万の里（きらめく班：鈴木、園芸班：田中） 保育所（栗原）		●イカ釣り+さばき体験 ●「あしべ」にて頂きながら 地元の方との交流会
9/19 木	○選択コース別研修 仁万の里 (ほのぼの班：栗原、園芸班：鈴木、各班：田中)		●仁万の里職員の方とBBQ (サザエ、あわび、蟹、仁 万の里のこんにやく、おも ち等頂いて)
9/20 金	お見送りされながら離島... 西郷港 8:30 別府港 10:05着 ●島前観光船	別府港 13:53発 七類港 14:59着 =久々の本土	米子空港 17:20発 → 羽田空港 18:45着

世界の最貧国・カンボジアの子どもたち

担当：山野 良一・伊藤 恵里子



2年：伊藤 華

わくわく体験研修で1週間、私はカンボジアへ行ってきました。カンボジアへ行こうと決めた理由は、「現地の子どもたちととにかく遊ぶ」という山野先生の言葉に魅力を感じたからです。治安が悪そうで怖いなという思いも少しだけあったり、危ないから行くなと反対されたりもしたけれど、この機会でないとカンボジアへは行けないと思い、行くことを決心しました。

出発当日、台風18号の影響で飛行機が10時間程遅れました。しかし欠

便にならず、飛んだだけまだ良かったなと感じました。「カンボジアへ着くのは夜中かあ、、、」と思っていたら、乗り換えのホーチミンではもう飛行機がなく、まさかのホーチミン空港で一泊することとなりました。

翌朝ようやくカンボジアへ着き、空港はとても綺麗で、「ここカンボジア？」と思う程自分の持っているイメージとは異なるものでした。ガイドのソピアクさんと合流し、ホテルへ向かいました。

ホテルは1週間滞在するので、カンボジアのホテルってどうなのかな

あと少し不安に思っていました。到着してみると、綺麗で広くて安心しました。しかし朝食のバイキングのメニューが一週間同じだったり、冷蔵庫が壊れていて全ての物が凍ってしまうなどありましたが、思い返せば良い思い出です。

カンボジアでは、孤児院など5つの施設を訪問しました。大きくて設備が整っている施設や、反対に小さくて貧しい施設など様々でした。子どもたちが着ている服も訪問する施設によって、汚れたものを着ていたりしました。しかし子どもたちの共通する点は明るくて元気いっぱい、私たちが行くと嬉しそうに出迎えてくれるところだと思いました。

施設ではまず一人ひとり自己紹介しました。それからピカチュウの手遊びや、きのこのダンスを子どもたちと一緒に楽しみました。子どもたちの前に出る前は、どのような反応が返ってくるのか不安だったけれど、一生懸命手でピカチュウを作っている姿や、きのこのダンスを真似して踊っている姿を見て、楽しんでくれて本当に良かったと感じました。また、紙風船・折り紙・縄跳び・ボールなど、日本からた

くさんの玩具を持っていき、子どもたちと思いっきり楽しみました。玩具はそのまま施設にプレゼントしたので、今でも遊んでくれているといいなと思います。

私が一番印象に残っている施設は、以前ごみ山が隣にあった学校です。私たちが到着すると、校舎から子どもたちが走って出迎えてくれ、腕を組んで校舎まで連れていってくれました。子どもの数がとても多く、みんなとても人懐こかったので、自分の中で印象に残ったのかなと感じました。

ここでは、自己紹介をした後、じゃんけん列車をしました。しかし子どもの数が多かったことと、ルールがきちんと伝わっていなかった為、子どもたちはただ繋がって全力疾走しているだけでした。しかし、本当に楽しそうだったので、あれで良かったかなと思いました。

じゃんけん列車の後は、去年の先輩たちもやったという水風船で、子どもたちと遊びました。子どもの数が多いので、一人に一つずつ水風船を渡すので精一杯でした。水風船を膨らまし終わり、子どもたちの元へ行くと、水風船を割ることなく大切そうに持ってい

る子どもがほとんどでした。私も小さい時に水風船で遊んだことがあります。投げて割って遊んでいたのですが、子どもたちの姿には少し驚きました。その後は、子どもたちがどこからか持ってきたペットボトルで水をかけてきて、ずぶ濡れになるまで遊びました。日本だったら絶対にやることのない遊びだと感じました。写真もたくさん撮り、子どもたちに見送られて名残惜しい別れをしました。

観光では、キリングフィールドと収容所へ行きました。キリングフィールドは、多くのカンボジア人が、カンボジア人によって殺された場所です。今でも骨や衣類が地面から浮かび上がっていて、「本当にここで殺されたんだ...」と実感し、言葉が出ませんでした。事前学習としてキリングフィールドについて調べていて、キリングツリーという木を見たいと思っていました。とても大きな木で、たくさんのミサンガが供えてありました。キリングツリーでは、多くの子どもたちが木に打ちつけられ殺されました。カンボジアに来てから毎日子どもたちと遊んでいた事

もあり、ソピアクさんの説明を聞いて辛い気持ちになり、その場に居ることさえ辛かったです。収容所では、拷問器具や実際の写真、血の跡が黒くなって残っていました。カンボジアの人たちは、日本人と同じように優しくて穏やかな人が多いです。そのカンボジア人によって大量虐殺されたというのが信じがたいけれど、収容所やキリングフィールドを見て現実にあった事なのだ実感しました。

カンボジアにいる間は、カンボジア料理、中華料理、イタリアン、タイ料理など食べていました。カンボジアに来る前は、ご飯美味しいのかなと不安でしたが、意外と美味しく、みんな体重を気にするほどたくさん食べていました。屋台ではカエルやヘビ、鶏が焼かれていました。ヘビ、鶏の頭、羽化直前の卵を記念にと思い食べましたが、全部美味しかったし、良い思い出になりました。ただ、ヤシの実ジュースを飲み忘れたことが唯一の心残りです。

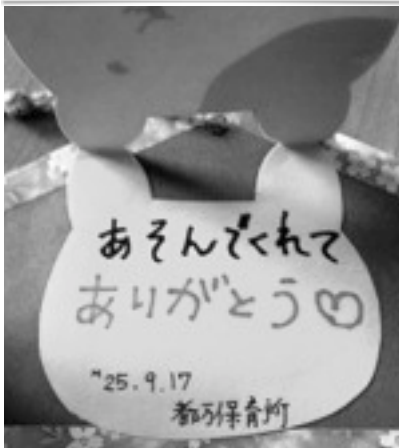
ホテルの近くに市場があったので、毎日のように行って買い物をして

いました。市場では、お土産物が全て買ってしまうほど広くていろいろなお店がありました。買い物の際、例えば6ドルだと言われても、4ドルじゃないと買わないと伝えると値下げしてくれたりして、安くかわいい物が買えることがとても楽しかったです。

カンボジアに来る前は、楽しみな気持ちもありましたが、治安とか衛生的にどうなのかなと、マイナスなイメージもありました。しかし行ってみると、行く前のマイナスなイメージを忘れてしまうほど毎日が楽しくて、充実

していました。また、あまり関わりのなかった友達とも一週間一緒にいることで仲良くなれ、本当に行って良かったと思いました。楽しいことだけではなく、私たちが外でご飯を食べている時、子どもがお金をせがんできたことが何回もあり、とても考えさせられたこともありました。いろいろな姿の子どもたちを見て、関わって、一週間本当に充実していました。カンボジアへは、また行きたいと思っているほど楽しかったので、1年生にはわくわく体験研修でぜひカンボジアに行ってもらいたいです！

wakuwaku gallery



キャンパス・ライフ

スターバックス お話ライブ

高森 智子



毎月第3土曜日の、午前11時。

スターバックスコーヒー千葉おゆみ野店のドアを開けると、いつもより少しだけ広くなった左側のスペースに、普段は敷いていないマットが敷かれています。

そこに座っているのは、小さなお客様たち。おうちの人に連れられてやってきた近所の子どもたちが、今日はどんなお話が始まるのだろうと、小さな胸を期待に膨らませて待っています。大きい子は幼稚園生、小さな子は赤ちゃんと年齢はさまざまですが、集まった子どもたちはみんなお話が大好きです。

「親子のために、絵本の読み聞かせライブをスターバックスのお店でやってくれませんか」というスターバックスコーヒー千葉おゆみ野店からの依頼

を受け、2010年に「お話ライブ」が始まってから、もう2年以上が経ちました。最初は絵本サークルや有志で始まったこの活動も、今では児童文化の授業の一環として、毎月10名前後の1年生が参加しています。

今年度のお話ライブは4月から始まりましたが、入学まもない1年生にとっては、人前、それも小さな子どもの前で絵本を読むのは初めての経験でした。どんな絵本を読んだらいいのか、どんなお話なら喜んでくれるのかと頭を悩ませるところから始まり、絵本の持ち方に苦戦しつつ、噛まずに読めるよう練習を積み重ねて、本番の日を迎えたことと思います。緊張して子どもたちの前に立ち、子どもたちの笑顔を見てようやくほっとしたという学生もいたかもしれません。

入学してから半年以上が過ぎた今では、学生たちのレパートリーも広がってきました。絵本だけでなく、紙芝居や手遊び、パネルシアターやエプロンシアターを選ぶ学生も増えています。しかし、「子どもたちにお話の世界を楽しんでもらう」という気持ちは変わりません。

そんな学生たちのお話を楽しみに、毎月通ってくださっている常連の方もいらっしゃいます。子どもたちも、ただじっと座って聞いているだけでなく、時折立ち上がって読み手に近づいては、絵本に登場するおなじみの動物に笑顔を見せたり、物珍しそうにエプロンシアターやパネルシアターを眺めて指さしたりしています。

お話ライブは、まさに「ライブ」です。お話の読み手だけでは、その時間を楽しむことはできません。その場と時間を共有してくれる小さなお客さまとその保護者の方たちがいて初めて、学生の語る物語は生き生きとした命を宿し、聞き手の心へと届きます。読み手と聞き手が一つになって物語を楽しむ空間、それがお話ライブです。

今年度の活動は、まだまだ続きます。これをお読みになっているそのあなたも、一度お話ライブにいらしてみませんか？

一人でも多くの方と、楽しい時間を共に過ごすことができるよう願っています。

第38回 お話ライブ プログラム

2013年12月21日 (土) 11:00-12:00

1. 手遊び「ピカチュウ」「ひげじいさん」
2. 絵本「りんごがひとつ」
3. 絵本「ゆきだるまのあたま」
4. 絵本「ねずみくんのクリスマス」
5. 紙芝居「おおきくおおきくおおきくなあれ」
6. 絵本「まどから・おくりもの」
7. 絵本「まるまるぶたさん」
8. 紙芝居「よいしょよいしょ」
9. 絵本「クリスマス・オールスター」
10. 絵本「そらとぶパン」
11. パネルシアター「三びきのこぶた」

次回のお話ライブは、3月22日(土)です！

和光保育園 わこう村大バザール

石井 章仁

11月17日（日）、富津の和光保育園に、2年生28名、1年生2名が、「わこう村大バザール」のボランティアに参加しました。こちらの園のバザーは、保護者や地域を巻き込む非常に大きな規模のバザーです。学生も微力ながらその一員として、次第に“巻き込まれ”、園の職員や保護者から刺激を受け、充実した一日となりました。また、今年から働く卒業生の少し成長した姿も見られ、様々な“ご縁”を感じる一日でもありました。



▲男性陣は手にマメを作りながらの餅つき



▲打ち上げは盛大に。♫は全員参加のフォークダンス

木更津社会館保育園 木更津こどもまつり

由田 新

保育方法演習(由田ゼミ)では、11月16日（土）、木更津社会館保育園が事務局となっていて行っている「木更津こどもまつり」に参加しました。学生たちがピーターパン、フック船長、アリス等のキャラクターに変装し、お祭りの会場内を回遊し、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。



New Face!

みやもと ひでき

宮本 秀樹 先生**「覚えること」**

本務校は、常磐大学(水戸市)で、社会福祉士養成に携わっています。

保育士養成課程においても、社会福祉士養成課程においても、〈学びの基本〉は一緒であると考えています。特に「社会的養護」のような理論系科目の場合、〈専門用語の名称とその意味を理解し、覚える〉ことが学びの出発点になります。専門用語を覚えなければ、〈語いとしての共通言語〉が成り立ちません。一度、共通言語を頭の中に定着させると、それが他の理論系科目を理解するための土台になります。また、既知の言葉を使えることの喜びと自信につながります。覚える学習は一般的に面白いとはいえないかもしれませんが、将来の専門職としての伸びしろになるし、ポテンシャルを上げるための方法なのです。

趣味は演劇鑑賞とガーデニングです。1980年代初めに文化座「おり

き」を山口県下関市で観たのが鑑賞のスタートラインです。間に空白期間がありましたが、現在は千葉市の演劇鑑賞団体に入って、観劇することを再開しました。これからも芝居小屋の〈非日常的な時間と空間〉を生活の一部に取り入れた生き方をしていきたいと思っています。

たじま みほ

田島 美帆 先生

こんにちは。10月から池谷先生の代行で「あそび基礎演習」の授業を担当させていただいている田島美帆です。

私が池谷先生と初めてお会いしたのは、都内のドイツ語のスクールで。当時、池谷先生はまだ大学生で私は音楽教室に勤め始めたばかりでした。もう10年以上前のことです。その数年後、旅行で出かけたオーストリアで、偶然にばったり再会。そしてそのまた数年後、保育専門学校の同僚として、ばったり再会。さらに数年後、久しぶりに連絡があって、

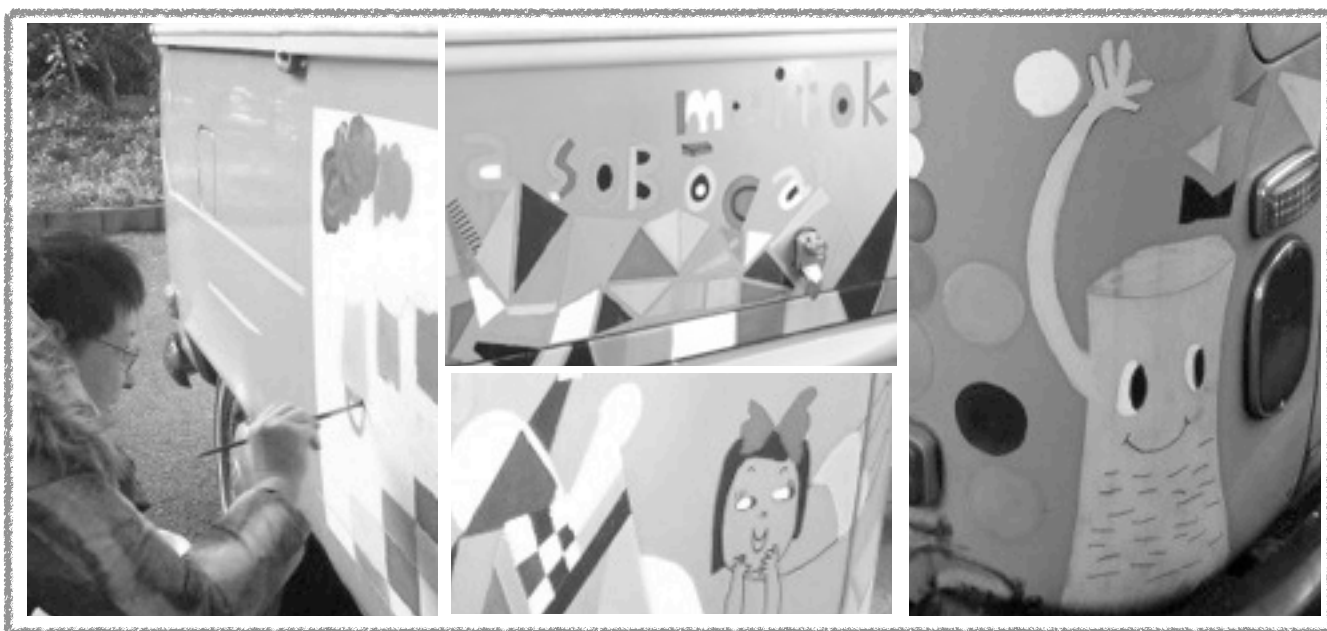
今回の明德のお話しをいただきました。人生の節目節目で、池谷先生が現れるという不思議なご縁です。

私は、普段は保育者養成の学校で保育内容の授業を担当している他、幼稚園の課外活動で音楽のクラスを持っています。実際に子どものクラスでやったことを、授業の中でも学生の方に体験してもらったりします

が、本当に楽しいことは、子どもも大人も、思わず夢中になってしまうのだなーと感じます。

そんな普遍的な遊びを、明德の「あそび基礎演習」の中で、学生の皆さんと一緒に体験し、新たに作り出していけたらいいなと思っています。どうぞよろしくお願い致します！

「明德あそぼうカー」おめかし中



寒空の中、深谷先生によって「明德あそぼうカー」が彩り豊かにおめかしされています。おめかしが完了したら、カラーで皆さんにお披露目します。もちろん、ご自身の目で確かめたい場合は、みなさんの遊び場へとお誘い下さい。（記：田中）

あそび基礎演習 合同授業

授業「あそび基礎演習」は、1年生を3分割し、造形・音楽・身体表現の各分野をそれぞれ年に8回体験できるようローテーションを組んでいます。加えて、言語表現や演劇表現も含めた総合表現として、年に4回合同授業を行っています。

11月には、後期の第1回目となる合同授業を行いました。今回は、構成遊びとして数百個もの色とりどりのペットボトルのキャップと、10月号でお伝えした「明德あそぼうカー」で子どもたちとも実施している土粘土で遊びました。（記：田中）





1月の予定

1/6

冬季休業期間終了
育ちあいのひろば「たいむ」開始

1/10

千葉県保育協会研修会講座

1/11

入試面談 公開授業

1/16

保育実践研究会

1/18

第3回スタートアップカレッジ

1/10, 24, 31

明德あそぼうカー

1/25

公開授業

1/27 ~ 2/8

保育実習Ⅰ（1年生）開始



▲ 12月20日（金）、菅谷先生の授業「あそび実践演習Ⅰ（音楽）」の成果として、育ちあいのひろば「たいむ」の子どもたちにミュージカルを披露しました。

編集後記

今月号は、11・12月を合わせた年末特大号です。「わくわく体験研修」の特集第2弾となる今回は、「長野」、「隠岐の島」、「カンボジア」での体験をお送りしました。この「わくわく体験研修」は、正式には「学外フィールドワーク」という名称ですが、「わくわく」する体験だという学生たちの声により、いつの間にか自然とこのような名称になったそうです。この研修だけではなく、今月号お伝えしたお話ライブやボランティア等、日々の授業内外でも、「わくわく」の種を得る機会があります。この種たちは、今、どう芽吹き育っているのでしょうか。

さて、師も走る師走、年末です。1年生は1月から始まる「保育実習Ⅰ」に向けて、2年生は卒業に向けて、学生も教職員も走っています。目一杯走れば転ぶこともあるかもしれませんが、転んだからこそ何かを掴んで起き上がりたいですね。でも何より、息切れしすぎないように、皆様よいお年をお過ごし下さい。（田中）

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

e-mail:

tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:[http://](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)

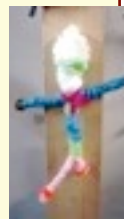
www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html

編集

田中 葵

深谷 ベルタ

鶴田 真二



読者の皆様へ、『月歩学歩』に対するご意見、ご感想をメールにてお寄せ下さい。